

・ アドバイスクラスの少し前に、私達のチーム活動の取り組みに対する甘さ、それは結局「やりたい」訳ではないのではということが陽子さんに伝わって、チーム活動からも、そのベースになる10年プロジェクトの活動からスッと退会されました。

その背景を基に、参加メンバーから皆がコーチングをやる理由、10年プロジェクトなどのチーム活動をやる理由について皆の意見を聞きたいと質問がありました。

最初に陽子さんを知った時間管理講座に参加しようと決めたきっかけは、職場での過ごし方や周りの人に対する感情を上手く処理できないからでした。

講座を何回か受け、その後の10年プロジェクトの取り組みの中で、いつしかその苛立ちが消えていました。

陽子さんが私に伝えてくれたことが明らかに自分の生活を変えてくれていたのです。

その恩を返したいという思い(何故という部分を置いての感情としての思い)で、陽子さんが抜けられた後の10年プロジェクトの活動ですが、続けたいと思っています。

陽子さんがその後のコメントのやり取りで言われた通り、もっと真っ直に、全てを咀嚼していればもっと早く劇的に変わっていたと思います。

陽子さんからは私たちのやっているフィードバックは、本来のフィードバックである、相手のためではなくて、相手の反応で嫌な思いをしたり、自分の隠したかった本音を掘り起こしたりというリスクを避けて、自分達に都合の良いフィードバックをしているとコメントがありました。

そういうやり取りは陽子さんがしたかったことではないと。

陽子さんは、良い人間関係を現時点は諦めるつもりはない」と断言された。だから、その部分は妥協できないと。

陽子さんも人間だから、ストライクゾーンが狭い状況で、フィードバックがほしいと言っても、そのストライクゾーンに投げ続ける体と心の負担を理解出来ているのかということを伝えられた。

そのコメントを聞いて、私達はなんて傲慢なことを生身の人間である陽子さんに対してやっているのかと思った。

5分間コーチングでは、自社で契約社員の立場のまま、正社員登用を望まないという人が何名か居たので、自分の会社に問題があるのか、またそういった方の気持ちが分からぬと思ってテーマに選びました。

陽子さんからは「正社員の何に満足しているの」と問われて、すぐに「裁量」という言葉が出てきました。

これは陽子さんから何度も伝えられていたことでした。裁量を一度失って、やっぱり自分は裁量なく、言われたことをやるだけの仕事には満足できないのだと思いました。

途中に「男性でもそういう人がいる」と言ったことで、ジェンダー問題にも転がりかねない話ではありました。陽子さん自身の思い(郵便局窓口の男性社員に対する疑問)はありながらも、「私が感じた疑問は私だからこそだ」というネタを一つ見付けるということに収束させるという道筋でセッションが終わりました。

他のメンバーでのセッションでは、中途入社の方を手助けしたい思いはあるけれど、その人にやる気が見られなくてどうしようかというものでした。

コーチ役のメンバーはクライアントからよく聞く話だからこそスッキリさせたいと試みましたが、いずれも完全なスッキリ感は得られなかつたように思いました。

陽子さんからの言葉で、クライアントがやられていたのは、周りに手を差し伸べるいい人という見られ方をされるつもりが、相手の出来が芳しくなくてそう思われなくなつたので気が進まなくなつたというものでした。

解説の途中で私はクライアントの本音が分からなくなりましたが、陽子さんは初めから見えていたようでした。

これは陽子さんが持つ情報量が多いだけでは無くて、クライアントの本質を見抜くように心がけているからなのだと思いました。

だからこそ、クライアントが行動を変えようと思う声がけができるのだし、私が目指す場所もそこなのだとしたら、今はその差が大きすぎて、やることは沢山あると思いました。

今回もたくさん学びありがとうございました。

(A.S 40代女性 大阪府)